

就労移行支援事業

就職者の近況報告

シニアホーム高山に就職した Reo さん（ペンネーム）

- ① どんなお仕事ですか？
利用者様の部屋のトイレ掃除です。
- ② 今どんなことにやりがいを感じていますか？
利用者様が喜んでくださることです。あと、丁寧とか、きれいと言われてもらえるととても嬉しく思います。
- ③ 青空作業所での訓練の中で今役立っていることはありますか？
集中力と忍耐力を付けること、丁寧な作業をすること、落ち着いて焦らず最後まであきらめない事です。
- ④ 就職前までに身につけておくべきこと、学んでおくべきことはありますか？
集中力、忍耐力、どんな環境でも慣れる事、我慢する事、人とのコミュニケーション
- ⑤ 就職してから困ったことはありますか？
特にありません。
- ⑥ 最後に就職を希望している人へのメッセージ
最後まで諦めなければ絶対に夢は叶います。
自分の夢に向かってくじけず前向きに頑張ってください。



視察研修報告

6月21日、ネットワークHIDA主催の視察研修に参加させていただきました。視察先は美濃市にある「株式会社 東海化成」で、園芸用ポットを作っている会社です。社員数およそ50名、現在5名の障がい者（知的障がい）を雇用しています。企業内ジョブコーチが8名みえます。

2ヶ所工場を見学した後、景山社長のお話を聞きました。障がい者雇用を始めたきっかけや社員にジョブコーチの研修を受けてもらう経緯など聞く事ができました。「障がい者も戦力になれる」と言う社長の固い意志のもと片手間指導ではなく、障がい特性を理解し環境を変える事で会社の重要な戦力になると社員に説明をしたそうです。自分目線の常識で見えていないか、「あれをしなさい、これをしなさい」と障がい者を変える事ばかり考えており、そうならない為研修を受ける事で障がい特性に合った支援ができるようになること、何より障がい者雇用の理解に繋がっているように思いました。



流れてきたポットを選別し数えて積んでいく



ジョブコーチより指示を受けている



長い人で29年勤務している方は、1つの仕事を覚えるのに数年かかりました。大変なのは、自分のペースで仕事をするのではなく、機械のスピードに合わせて作業する事。数も間違える事なく数えなければなりません。機械操作や調整、2つの製品を同時にやり数える人もいます。今ではみんながお手伝いではなく、生産の一部を担っているそうです。

社長の、「必要なのは働きやすい環境と一緒に働く障がい者の特性を理解すること、時間はかかるけれど必ずできる」とおっしゃった言葉に共感し、皆さんが働きやすい環境を作れるような支援をしていきたいと思いました。（就労定着支援員 小谷）

就労継続支援 B 型事業

あじさい会の行事の様子をお伝えします♪

先日グループごとに分かれて、飛騨市にある『喫茶 憩いの家』までランチに行きました。

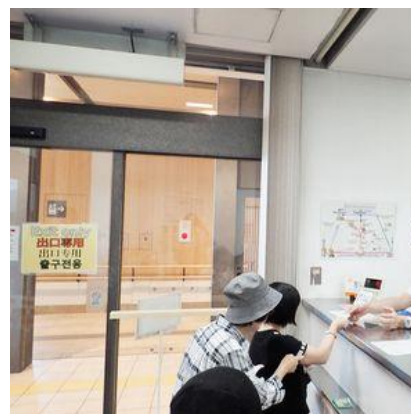
今回の目的は、公共交通機関の利用を体験すること、支払いを個々で行うことです。行きはJRで高山駅から飛騨古川駅まで向かい、帰りは濃飛バスで高山駅まで帰りました。大半の利用者さんは公共交通機関を利用するのが初めてでした。利用したことがある方も、「切符を買うのは初めてだから緊張するー！不安だー！」と言っていましたが無事に改札まで入り、電車に乗ると安心した顔をしていました。

電車がくるまで周りに迷惑がかからないように待つことや、食事の際も皆が揃うまで待ってから、食べるといったマナーも自然とできていました(*´▽`*)

食事代の支払いの際も、自分で払う緊張感を味わいながら良い経験が出来たようです。

これまで公共交通機関の利用に不安があった方も、今回の体験で少し自信がもてたのではないかと思います。

車いすの方は事前に予約をしていないと乗車が難しいことや、一度に何台も乗車をするのは難しいといった課題が明らかとなりました。こうした問題点を行政等に伝え、改善していけるように取り組みたいと思います。



緊張しながらも無事に切符が購入出来ました。



電車の待ち時間に、外の景色を楽しみました。♪



バスを待っている間に周辺を散策し、鯉に餌やりを行いました。大きな鯉にビックリしました(笑)

昨年「道の駅 なぎさ」に、ウエルの商品を置かせて頂いています。

営業時間は下記のとおりです。

AM8:30~PM5:30

定休日 水曜日※冬季のみ

(祝祭日は除く)

お立ち寄りの際は是非お手にとってご覧下さい。



話題の刺し子・人気のポチ袋・安定した人気のボカシ・バスボム・コースター等置いてありますよ♪



防災訓練を行いました



6月10日に、青空作業所を利用されている方々と防災訓練を行いました。今回は施設での火事を想定し、いざという時の避難経路を確認する避難訓練、水消火器を使った消火訓練を行いました。

災害が発生した場合、素早い通報が重要であること、通報する時には何を伝えればいいのかを知り、実際に119番通報できるようスタッフで通報訓練も行いました。

次回は、高山市が発行しているハザードマップを使い避難場所へ安全に避難ができるよう取り組みたいと思います。



青空通信

NPO 法人 ウェルコミュニティ飛騨 青空作業所

高山市山口町 1297-1 0577-35-1559

<https://www.welcom-aozora.com/>

令和1年 7月 10日発行 第41号



引きこもりについて考える

理事長 柏木 真司

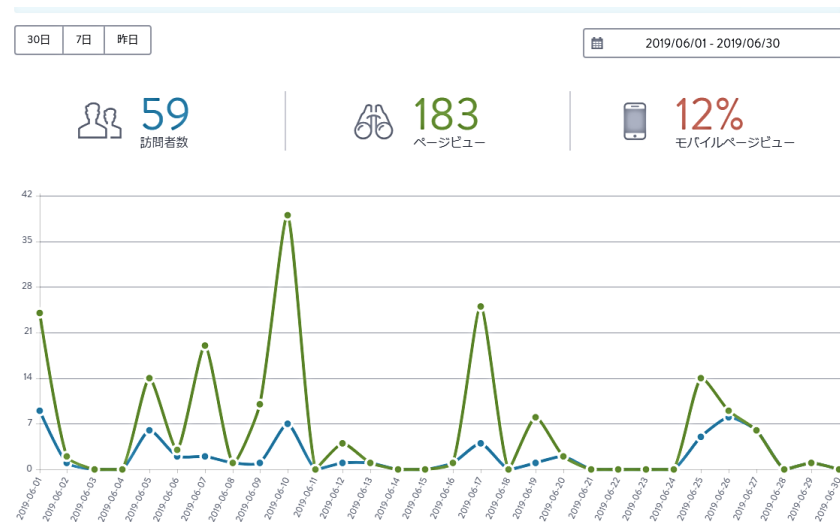
ここ最近、引きこもり状態にあった人が起こした殺傷事件や元官僚が引きこもり状態の息子を殺傷するといった事件が立て続けに発生し、新聞ならびにテレビ等で大きく報道されました。このことにより引きこもり状態にある方々やご家族はさぞかし辛い思いをされていることと思います。

これまでも精神科受診歴のある人が何か事件を起こす度に一般の方々の誤解偏見を助長するような報道がされてきました。今回も一般市民からは「死にたいなら自分一人で死ねばよい」「他の人を巻き込むな」といった声が、あたかも正論のごとくあげられています。しかし、これはとても短絡的な意見だと思います。

引きこもり状態にある人たちに共通する「孤独」といった状態は、必ずしも個人的な要因により起きるものではありません。一例をあげるならば、発達障がいといった生まれもった状態において適切な療育がなされず、コミュニケーションスキルや対人形成が未熟なまま学童期に疎外感を感じ、自己否定を繰り返しながら自信喪失となり、働く機会を失い、人に対し不信感を募らせ、受け入れられない社会から逃避してしまう。こうした経緯で引きこもり状態になったのは、長い時間の経過の中で家庭環境や療育及び教育、就労など必要な場面で適切な支援が受けられなかったという社会的な課題が要因となっていることを理解しなくてはならないと思います。つまり社会的な課題に目を向けず、ただ引きこもり状態の人を否定することは、より孤独状態に追いつめるだけで何の解決にも至らないということです。

誰しも「孤独」を望んではいません。マズローの欲求の5段階に連帯（社会的）欲求があります。人は「社会や人と繋がりたい、人との関わりをもって暮らしたい」という欲求があります。自分と考え方や生き方、生活状況が異なる人を否定し、排除するといった考え方には虚しさを感じます。私は引きこもり状態にある方に対して、新しい生き方、多様な生き方を提案し、社会に繋げていく支援こそが大切であると思います。

ホームページOPENしました



無事、4月22日に、青空作業所のホームページをリニューアルオープンすることができました。

オープン当初は検索エンジン最適化やページ概要の設定などを試行錯誤する状況が続き、訪問者数も少なく寂しい状態でしたが、最近では多くの方に訪問していただき、青空作業所が取り組む事業を知り、活動報告を見ていただけるようになりました。

今後は、就職された方の声や職場で頑張っている皆さんの近況報告、各事業の活動報告。余暇支援の取り組みなどを更新し、内容の充実を図っていきます。

